

## 第514回 長野放送番組審議会

1. 開催年月日 令和2年11月4日(水) 午前11:00より
2. 開催場所 長野放送本社会議室
3. 委員の出席 ○委員総数 8名  
○出席委員数 8名  
○出席委員の氏名(敬称略・委員は五十音順)  
委員長 林 新一郎  
副委員長 渡辺 重久  
委員 加藤 恵美子  
委員 笹本 正治  
委員 佐藤 裕一  
委員 瀧川 浩  
委員 武重 正史  
委員 南澤 光弥  
○放送事業者側出席者名  
外山 衆司 (代表取締役社長)  
太田 耕司 (取締役 報道制作担当)  
飯塚 憲彦 (取締役 編成・業務推進・放送番組審議会担当)  
春原 晴久 (報道制作局長)  
早川 英治 (編成局長)  
浅輪 清 (編成局次長 兼番組考査部長  
兼放送番組審議会事務局長)  
北沢 輝久 (編成局編成部長 兼視聴者室長)  
塚田 哲也 (報道制作局報道部長)  
中村 明子 (報道制作局報道部)

### 4. 議題

#### (1) 番組審議

『 NBSフォーカス∞信州

あしたを建てる ―長沼・堤防決壊から1年― 』

令和2年10月9日（金）夜7時00分～7時57分放送

- (2) 災害時の対応について
- (3) 視聴者対応報告（令和2年10月分）
- (4) その他

## 5. 議事概要

### (1) 番組審議

- ・単に生活を取り戻すだけではなくて、地域の歴史や文化、自分の生まれた風土、ご先祖様、子孫、血縁の繋がり、地縁とかそういうものを含めたアイデンティティを取り戻すということが、復興ということなんだろうなということを番組を見て感じた。
- ・被災経験とかアイデンティティを共有するのが地域で、それを一緒に立て直していくというのが復興ということなんだろう、地域と復興というのは不可分の物と感じた。
- ・アイデンティティのある地域という中で考えて行けば一緒にやって行けると思っている方たちががんばっているんだろう、それが明日への希望に繋がっているんだろうということを感じた。
- ・記録映像としても貴重な物だと思うので2年後、3年後、5年後、10年後も追いかけて取材していただきたいと思う。
- ・復興に戻らなかった人たち、もしかしたら心の痛みを感じている人たちの取材もしていけたらいいと思う。
- ・災害を思い出してみんなで頑張っていこうという力強さは感じなかった。

- ・関茂男さんはずっとあの地域を良くしようとしているので言葉に重みがあるし、力を感じると思った。
- ・集落の個々の住宅や小規模の事業者の復旧のスピードは、かなり遅いと改めて感じた。
- ・長沼という地域は何度も災害を乗り越えてきている地域だからなのか、災害に対して皆さんが団結して守り続けていくという絆や普請の精神が地域を守っていくと感じた。
- ・テレビは災害現場の匂いだとか埃だとか、泥というものをリアルタイムでどうやって伝えていくか、被災された方々と同じ苦しみを感ずるための報道はどう伝えるべきかということを検討して欲しいと思う。
- ・単なる1年前の振り返りでは留まらず、被災実態よりも復興プロセスを丹念に追い、絶望を希望に昇華させた番組だったと思う。
- ・地域のコミュニティーの在り方や、「地域とは」という原点の在り方について非常に示唆的な番組になったのではないかと思う。
- ・2016年の桜堤、2011年の祭り、2010年の屋台の復活などとの対比や、主人公の関さんの31歳の映像なども出てきて、現在と過去の様々な時点の映像アーカイブを活用してうまく組み合わせ、長沼地区をクローズアップされたということで非常に良かったと思う。
- ・関さんの視点を通じて見つめた復興の1年ということで、「あしたを建てる」という希望に繋がるんだというタイトルが非常に良いと思った。
- ・自宅の改修を後回しにして地域のために奔走される関さんの郷土愛を通じて、長沼地区の風土あるいは暮らしというのが感動的に伝わって来たと思う。

- ・桜の植え替え、堤防の完成、お祭りの様子、迎え盆の様子、リンゴの収穫、日々の脈々とした生活の中に取材陣がどっぷりと入り込んで取材をされて復興というものが我々も実感できたと思う。
- ・小学生の同級生が集まって歌を歌うシーンや、品評会で最高賞を受賞されたとか再生に賭ける人々の姿に希望を感じた。
- ・全体として、キーワードが経済の論理を超えるような思いとか、人の生き方の問題であるのではないかと思い、強く感動した。
- ・長野県にとって「あしたを建てる」ということは、長沼を通じて長野県全体がどんなふうになっていくべきかという方向性も見ていけたらいいと思った。
- ・大きな災害があった時のものは、みんな着目するけれども、瀕死の状況でずっと続いている物に関しては目もくられていないのではないかということ逆を思った。過疎化もまた災害だと思う。
- ・桜堤の歌の場面で「本当の幸せな時に歌ってもらいたかった」というような言葉は実感がこもって、みんなに届いたんじゃないかなと思った。
- ・坂本アナウンサーのナレーションは過剰な思い入れの表現もなく落ち着いた視聴者に進行する語り口で良かったのではないかと思った。
- ・何十年も追いつけてもらおうと、本当に被災地が元気に再建されるのか、限界地区となって廃墟と化するのか、災害を考える貴重な記憶遺産というか記録遺産になっていくと感じた。
- ・エンディングの所で「地域が好きでその先に何かが見つかる、その先にあるものを信じて」という終わり方が余韻を残し、いろいろな思いを抱かせるという点で素晴らしい終わり方だったと思う。

- ・テンポが速く展開されていくので、全体的にはいろんな素材が盛り込み過ぎたかなという思いが少し残った。

## (2) 災害時の対応について

資料に基づき、災害時の対応について編成局より報告を行った。

## (3) 視聴者対応報告

資料に基づき、令和2年10月分の視聴者対応について編成局より報告を行った。

## (4) その他

### 配布資料

- ・非常災害時の基本マニュアル（令和2年10月改訂版）
- ・視聴者対応報告資料（令和2年10月分）
- ・第513回番組審議会（10月）議事録
- ・民間放送（第2165、2166号）
- ・BPO報告（No. 218）
- ・モニターレポート

『 NBSフォーカス∞信州

あしたを建てる ―長沼・堤防決壊から1年― 』

（令和2年10月9日 放送分）

以上